

令和3年度

さいたま市立岩槻中学校だより

9月号 (令和3年8月26日発行)



槻の若木

〒339-0054 岩槻区仲町1-14-35

電話：048-756-0254

FAX：048-758-7483

HP：<http://iwatsuki-j.saitama-city.ed.jp>

Mall：iwatsuki-j@saitama-city.ed.jp

『感謝』～できることと学ぶこと～

校長 松戸 政世史

処暑の候、36日間の夏休みも終わり、2学期が始まりました。しかし、緊急事態宣言が9月12日までに延長され、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための「学校の新しい生活様式」を守り、学習や学校行事の形態を工夫しながら、進めていかなければなりません。引き続き、生徒、保護者、地域の方々の御理解、御協力をお願いいたします。

まず、「感謝」とは、1年半以上も続く新型コロナウイルス感染症に対応されている医療従事者をはじめとする関係者の皆さんへの「感謝」です。強い「使命感」を持って、私たちを助けるために、強い意志で支えてくださっています。ところが、この夏休みも、コロナ感染者は減るどころか拡大が続いています。そして、医療体制が崩壊の危機にみまわれています。1年半以上も休むことなく、私たちのために戦ってくださっている人々がいるのです。私たちにできることは何でしょうか。「使命感」の類義語に「責任感」という言葉があります。私たちは、この「責任感」を持って、日々の生活を送るべきではないでしょうか。私は、この夏休み中、仕事以外は、旅行にも行かず、自宅で過ごしました。各自が自分の行動に責任を持つことです。ニュースを見ていると、混雑する街中のインタビューで、「自粛期間が長いから、私も・・・」、「オリンピックを開催するのだから、私も・・・」などと答える人がいました。医療従事者等の関係者は、1年半以上も、私たちを支えてくれているのです。「責任感＝できることをしっかりと行うこと」として、一人ひとりが自分自身でできることを行っていきましょう。やってない人がいるからというのは、理由にはなりません。その人にはその人の理由があるかも知れません。一人ひとりが、「マスク」、「手洗い」、「3密を避ける」、「黙食」など、「学校の新しい生活様式」を中心に、強い「責任感」を持って、できることをしっかりと行い、みんなでこの危機を乗り越えていきましょう。そのことにより感染者数が減っていけば、私たちを支えてくださっている医療従事者等の関係者に対する「感謝」を行動で示したことになります。

次に、学ぶこととは、東京オリンピックから学んだことで、それは、「多様性と包摂性」です。東京オリンピックでは、日本史上最多の58個（金27個、銀14個、銅17個）を獲得しました。日本初の快挙である卓球の水谷・伊藤ペアの金メダルや野球の金メダルなど多くの種目で躍動した選手の姿に、「あきらめない心」や「一つになって挑む心」など感動と勇気をもらいました。そして、試合後のインタビューでは、どの選手からも、自分をその試合の場に立たせてくれた関係者や医療従事者への「感謝」の気持ちが伝えられました。また、男子走り高跳びで金メダルを分け合ったカタールとイタリアの選手や、オランダの選手がベルギーの選手を激励して2・3位でゴールした男子マラソンなど、アスリートが性別や国の壁を乗り越えて体現した「多様性と調和」の大切さを、最終演技で難しいプログラムに挑戦して失敗した選手に駆け寄り、称賛しあったスケートボードの女子パークに象徴されるように、若い世代の選手たちにも引き継がれていることは、とても素晴らしいことです。そして、その精神は、パラリンピックにおいても、アスリートにより体現されることでしょう。

最後に、「多様性」を理解したうえで、「包摂性（日常生活の中で、異質な存在を取り込む過程）」を持って、多様な事柄や人々を受け入れて行動することのできる人が増えるなど、一人ひとりが伸び伸びと過ごしやすい明日を築いていきましょう。